資料２

平成 29 年度鹿児島大学公開講座「新しい総合計画づくり」
第１回　開催結果報告

１．目的

第５次垂水市総合計画を策定するにあたり、市民と行政が本市のまちづくりにおける課題について認識を共有するとともに、課題に対する市民の考えやアイデアを把握し、計画に反映させるため。

２．開催概要

開催概要は以下のとおり。

なお、テーマは、第４次総合計画の政策に対する市民満足度調査結果において、市民からのニーズが高い「医療・介護体制の充実」、「働く環境の充実」、「子育て支援策」の３テーマとし、第１回目は「医療・介護体制の充実」とした。

〔第１回　開催概要〕

日時	平成 29 年 6 月 25 日（日）13 時 30 分～16 時
場所	市民館大ホール
テーマ	医療・介護体制の充実
参加者	67 名（市民 40 名、職員 27 名）
主な内容	（１）開会／市長あいさつ （２）公開講座の概要説明「市民公開講座の目的」 鹿児島大学法文学部法経社会学科　小栗有子准教授 （３）ガイダンス「素敵な人生を送るために」 鹿児島大学病院副病院長（鹿児島大学医学部心臓血管・高血圧内科学） 大石充教授 （４）ワークショップ「みんなが健康で、素敵な人生をおくるために」 Ａ班・Ｂ班「今、自分たちがすべきことは？」 Ｃ班・Ｄ班「今、自分以外（家族、友達、市、国）に望むことは？」 Ｅ班・Ｆ班「未来の人たちのために、今、自分たちができることは？」 （５）発表と講評 （６）閉会／副市長あいさつ

■市長開催あいさつ

■小栗准教授による講座説明

■大石教授によるガイダンス

３．講演、グループ討議要旨

以下、講演及びグループ発表と講評の要旨をまとめている。

（１）公開講座概要説明「市民公開講座の目的」

～鹿児島大学法文学部法経社会学科　小栗有子准教授

公開講座の目的

本日の公開講座の目的について説明させていただく。

本日の目的は、ご参加の皆さんが平成 30 年から 10 年間の第５次垂水市総合計画づくりの過程に参加する機会であり、これからのまちづくりについて提案する場である。

そして、その提案を行政が受け止め、第５次垂水市総合計画素案の策定に活かしていくことが大きな目的である。

本日のテーマ

総合計画とは、まちづくりの方向性を表した行政の計画である。

行政はお金、人、権限を持っており、それらを垂水市の皆さんの住民福祉の増進を図るために使う。

皆さんが生まれてから死ぬまでの生活全般が行政の仕事の範囲であり、そのために行政には様々な課がある。

本日のテーマは市民課・保健課・福祉課の範囲となる、「10 年後の垂水市の医療・介護体制の充実」である。

この「医療・介護体制」をもっと簡単な言葉で言い換えると、これは大石先生の講演のテーマでもあるが、「10 年後もみんなが健康で素敵な人生を送り続けるために、これから何を考えていかなければならないのか」ということ。

計画策定までのスケジュール

計画策定までのスケジュールだが、議会での承認を経ながら来年 2、3 月までに策定作業を進めていく。

本日は「医療・介護制度の充実」というテーマで公開講座を実施し、あと 2 回、それぞれ「働く環境の充実」、「子育て支援策」というテーマで開催する。この 3 テーマにおいて、これまでの 10 年を総括し、これからの 10 年の方向性を話し合い、8 月までに作成する総合計画素案に反映させる。

8 月に公開講座フォローアップを開催するが、皆さんの時間が許す限り参加していただき、本日の公開講座の結果がどのように反映されているか確認をしていただきたい。

このあと、9 月 10 月に実施するパブリックコメントでも、計画に市民の声を入れる機会がある。

公開講座の意義

最も大事なのは「行政側が真摯に市民の皆さんの声を聴く」ということ。

本日は 39 名の市民の皆さんが参加されている。これを単純に垂水市の人口で割ると皆さん 1 人 1 人の後ろに 150 人の市民がいる。150 人の市民の声を背負って、ご参加いただければと思っている。もちろん、様々な価値観の方がいらっしゃるが、そういった声を聴くことが公開講座の意義である。

皆さんを主語にすると、皆さんの様々な思いや願いを語っていただくのが公開講座という場になる。

本日の進め方

そのための方法として、本日は「医療・介護体制の充実」について、まず、私たちは何を考えていかなければならないのか、どう考えればいいのか、話題提供をさせていただく。皆さんはそれを受け止めて、小グループに分かれ、意見交換をしていただく。

最後に各班がどういった議論ができたか発表し、最後に大石先生のほうから講評をいただく。

（2）ガイダンス「素敵な人生を送るために」

～鹿児島大学病院副病院長（鹿児島大学医学部心臓血管・高血圧内科学）　大石充教授

ワークショップのための 3 つのサブテーマ

「『素敵な人生』とは何か」ということを考えるために、3 つの班に分けてそれぞれにサブテーマを設ける。

1 つ目、個々の「素敵な人生」を送るために今自分がしなければならないことは何なのか？

2 つ目、そのために自分以外（家族、友人、市、国）に望むことは何なのか？

3 つ目、将来、未来の人々（10 年後の垂水市、子や孫）の「素敵な人生」のために、皆さんがしてあげられることとは何か？

今までの人生を振り返り、素敵な人生とは何かを考えてみる

自己紹介をすると、愛知県の岡崎市生まれで、地元の中学校、県立高校を卒業したが、もともと医者志望ではなく、ロケットやテレビ、車を作るエンジニアになりたかった。

中学校のとき野球部に入ったのだが、そのときキャッチャーだった生徒は、両親がいとこ同士だった。近い血縁関係で結婚すると、障害をもつ子供が生まれる確率が高くなる。彼もお姉さんも身体障害者だった。その彼が風邪をひいたときに「身体障害者は診られない」と岡崎市内の病院からすべて拒否され、22 の病院をタライ回しにされ、重度の肺炎で亡くなった。それを聞いて、そういった患者を診る医者になるか、そういうことをさせないように法律を作る政治家になろうと思った。

医者なろうと決意をして大学を受験したが浪人した。愛知で予備校に入ると 20 くらい一気に偏差値が上がり大阪大学に入ることができた。しかし、大学に入ったら緊張の糸が切れてしまい、ほとんど大学に行かずパチンコばかりしていた。試験もうまくいかず挫折し、自分は偉い人間じゃないと思うようになったが、このことで、患者さんの側になって考える医者になった。開業したかったが、No と言えない性格のため、大学病院に勤めた。決して順風満帆な人生ではない。

サブテーマ設定の理由

今日は 3 班に分かれ、「素敵な人生を送る」ために自分たちがすべきこと、自分以外に望むこと、未来の人々のために自分たちがしてあげられること、を考えていただきたい。

垂水市は高齢化率 39.8％と高齢社会であるが、70 歳以上の人を対象にした「理想的な老

化」を問う有名なアンケートがある。「とにかく長生きしたい」は 50%未満で、「死ぬまで健康でいたい」、「人生の大部分を満足に過ごしたい」「身の回りのことは自分でしたい」は 80%以上である。

つまり、「素敵な人生を送る」には「死ぬまで健康で」、「人生の大部分を満足に過ごし」、「身の回りのことは自分で」できるという理想的な老化を目指さなければならない。

理想的な老化のために

理想的な老化である「健康で、満足に、自分のことは自分でする」ために、まず自分ですることは、「大病しないこと」、「認知症にならないこと」、「足腰が弱くならないように鍛えること」、等が挙げられる。

次に、市町村を含め行政に望むこととして、「自分たちが病気かどうかをチェック・予防をしてほしい」、「足腰を鍛える場を提供してほしい」といったことが挙げられる。

最後、未来のために自分ができることは、「家族と健康な生活を送ること」や「歳を取るということはどういうことか若い子たちに伝えること」等が挙げられる。

以上のことを、今からワークショップでそれぞれ考えていきたい。

私の人生は素敵でしょうか

「素敵な人生を送る」というテーマに翻り、私の人生は素敵でしょうか？というと、私の人生は素敵です、と答える。できることなら、もう一度同じ人生を歩みたいと思っている。医者は天職で、家族もいて幸せ。順風満帆ではなかったが、それがあったから今がある。

座右の銘は、「与えられた場でベストを尽くす」。ただし、すべてに満足しているわけではない。もし叶えられるならブラッド・ピットやのジョニーデップのような見た目になりたい。持病もあり、それがなければいいのにとも思うが、それでも私の人生は素敵だ。

素晴らしい人生に答えはない

40 人なら 40 通りの答えがある。今日は皆さんに夢を語っていただいて、その夢を実現するにはどうすればいいか、自分の視点、周りの視点、未来へ向けた視点から考えてもらいたい。

正解はなく、それぞれの意見が統一されるわけもなく、まとまるわけでもない。しかし、確かにそうだと思えるような、意見が出てくるかもしれない。

自分で自分の人生を素敵にするために、恥ずかしがらずに言葉にしてみてほしい。それは実現するかもしれない。言うのはタダなのだから、言わないと損だ。

（3）ワークショップと講評

テーマ：「みんなが健康で、素敵な人生をおくるために」

サブテーマ：

A 班・B 班「今、自分たちがすべきことは？」

C 班・D 班「今、自分以外（家族、友達、市、国）に望むことは？」

E 班・F 班「未来の人たちのために、今、自分たちができることは？」

A 班	サブテーマ：今、自分たちがすべきことは？

みんなが健康で素敵な人生を送りましょう！
～今、自分たちがすべきことは？～

健康

○自分が元気でいる、健康を維持するという本人の意識が大事
- 歩いて通勤
- 油分・塩分を控える
- 趣味を持つ

○話せる場を持つ
- (男版)いきいきサロンや語りの場を設ける

○健康維持のための施設整備
- 健康づくりできる施設（無料）
- 道の駅の中に健康施設がほしい

○その他
- カラオケ月２回
- ボランティア

人材確保

- 医師不足
- 介護職のなり手がいない
- 介護職の処遇改善が必要

地域交流

- 住宅医療について
- 老老介護
- 家族が近くにいない（介護者）
- 経験教育
- 介護の教育
- 人に必要とされる人になる（ボランティア）
- 地域の相互体制

その他

- 病院への交通手段
- 検査が多い

施設

- 入院施設(病院)が少ない
- 毎週５日以上(牛根境)開院してほしい
- 地域の診療所
- ケアハウス充実

医療施設、介護施設が脆弱な垂水市にあっては
他人や家族に迷惑をかけないよう、自ら趣味（運動）をもち、維持する

～大石教授の講評～
- 「カラオケ月２回」という具体性が良い。
- 「語りの場」、「男版いきいきサロン」というのも良い。
- 「趣味を持つ」というのも良い。鹿児島に来たら趣味の釣りをしようと思ったが、まったくできていない。
- 具体的な話であったのが非常に良い。

B 班	サブテーマ：今、自分たちがすべきことは？

みんなが健康で素敵な人生を送りましょう！
～今、自分たちがすべきことは？～

健康の維持

・自分と家族が健康であること
・健康について良く話し合う、気遣いをする
○知ること
　・自分の健康状態を知る
　・健康診断を定期的に受ける
○運動
　・何をするにも健康な体が大切で自己流で適度の運動をしたい
　・運動をして足腰を丈夫にする。
　・車をできるだけ使わない
○食事
　・体に良い食事を摂る
○場の設置
　・空き家などを利用した、集まる場所の提供
　・認知症やうつ病にならないように皆が楽しめる場を作る
　・ストレスをかけないように生きる

介護施設の充実

・自分が健康でいるためにも、年老いた親の介護施設を充実させ、必要なときはいつでも預けられる状況にあって欲しい

心の健康

・趣味を持つ
・思いやりを持つ
・自分＝他人＝認める

地域交流

・近所付き合いを強くする
・地域での助け合い
・自分自身が健康を維持し、困っている方を少しでも手助けしたい
・心身ともに健康を維持し、困っている人々の手助けができるようボランティア活動を行う

社会の在り方

・貧しさ、格差のない社会であること

その他

・健康で素敵な人生＝幸せな人生？

心身ともに健康であること

～大石教授の講評～
・鹿児島の人は車を使いすぎだと感じる。目の前のスーパーに行くのに、車で行ってしまう。なるべく目の前ぐらいは歩いて欲しい。
・「自分と家族が健康であること」、「体に良い食事を摂る」は大事だ。
・「近所づきあい」とか「地域」、「思いやり」という言葉が多く挙げられた。ネガティブな方向に話がなりがちだが、ポジティブ思考で非常に良い。

C 班	サブテーマ：今、自分以外（家族、友達、市、国）に望むことは？

みんなが健康で素敵な人生を送りましょう！
～今、自分以外（家族、友達、市、国）に望むことは？～

医療体制の充実と人材確保

○医療体制の充実
- 中央病院に小児科を作ってほしい
- 医療介護の地域格差をなくしてほしい（特に牛根地区）
- 病院の入院施設の増
- 救急患者の応急処置

○人材確保
- 医療や福祉がしっかり受けられるように人材不足をなくしてもらいたい
- 医療・福祉を担う人材の育成
- 学生への支援（介護・医療と担う学生）
- 整形外科医の確保
- 病院の充実いつでも医師の確保
- 介護施設の人材確保

地域見守り 支えあい・助け合いの地域づくり

- 市民・国民としての役割・義務とは… 市民・住民の連携（絆）
- 地域（垂水市）に思いやりのあるやさしい社会であってほしい
- 地域全体で支えあう体制づくりの強化

健康づくり(施設)

- 体を鍛えられる健康施設を作ってほしい
- 健康保持のための市民全員で取り組める体操のようなものを行う
- 親にはいつまでも元気で自分たちだけで生活してほしい

情報発信

- 介護保険についてもっと教えてほしい
- 将来の介護体制の明確化

健診受診勧奨

- 受診率アップのために保健推進員を！

体制づくりと情報発信

～大石教授の講評～
- 介護施設の人材確保については、募集しても来ない状況にある。
- どこに何がほしい、必要だという具体的な話が良い。

D 班	サブテーマ：今、自分以外（家族、友達、市、国）に望むことは？

みんなが健康で素敵な人生を送りましょう！
～今、自分以外（家族、友達、市、国）に望むことは？～

場所

・高齢者サロンのような施設を作ってほしい
・振興会長の家に集める
（→公民館等の位置の問題）
・隣近所の付き合いが多くなってほしい
（高齢化のためあまり機会がないため）
・部落に寄合場所がほしい
・気楽に集まれる場所を作る

環境

・集会に来ない人→来てくれたらつながり活性化
・市内全域を回る交通手段の確保
タクシー、バスの充実
・いろいろな催しに人をたくさん集めたい
・若い人→実家に住めない→ホテル
→住めるように大規模リフォーム等
・住宅改修のための補助金
・管理のできていない土地・空き家等の管理
・空き家、放置された土地の整備をしてほしい
（雑草）

医療

・待ち時間が長い
・Dr.に顔を見て合わせて、診察してほしい
（2～3 時間待って診察は 1 分の時がある）
・眼科・耳鼻科がほしい

機会

・健康でいるために運動できる場所がほしい
（プールなど雨の日とかでもできる施設）
・みんなで運動の機会を設ける。スポーツ体操
・体力づくりの場所がほしい
・合わせて運動計画の告知、周知
・大人と会話できるような機会をもっと持たせる
・いろんな人が集まる食事処、カフェとか、子供食堂など

人材育成

・人材育成（看護、介護職）
・24 時間営業のコンビニエンスストアとの連携
・中心となるリーダーがいない
→いればもっと盛り上がるのでは？
・ボランティア(傾聴等)を有効に活用したい

場所・機会・環境の整備と人材育成

～大石教授の講評～
・医療については、「待ち時間が長すぎる」という問題提起があった。
・リーダーや安全な場所の確保というのも重要なことである。
・行くのに交通手段がないから行きづらい、という実態も課題のひとつである。

E 班	サブテーマ：未来の人たちのために、今、自分たちができることは？

みんなが健康で素敵な人生を送りましょう！
～未来の人たちのために、今、自分たちができることは？～

教育

・健康教育の強化
・職業を生かした健康教育
・医療介護を自分の「こと」として考える
・今後の医療介護体制の教育
・社会教育の強化
・住民の意識改革(行政を当てにしない意識)

家庭

・家族の健康状況を把握
・楽しい健康つくり
・ひとり暮らし支援対策
・元気な高齢者と手伝いを希望する人との
コーディネイト(つなぎ)

社会

・コンパクトシティ　　・すまいの中央化
(将来的には一極化も考えなくてはならない)
・空き家対策
・近隣の空き家に関する情報提供
・地域差のない様々なサービス
・交通手段の確保
・家庭で母親が育てる体制の補助、支援
(子供が 1～4 歳時)
・ラジオ体操の町づくり
・働く場所の確保、提供

地域

・お互い様の関係づくり
・「お元気ですか」のあいさつをする
・世帯間交流をする
(あいさつ、子育て支援育成等)
・地域での声掛け(相互関係の構築)
・お互い様の気持ちを育む
・小さいことの積み重ね→素敵な人生
・老人クラブが中心のグランドゴルフで、地域の
5 集落が一緒になり交流している
・リーダー、キーパーソンの育成

・自ら創りだす　　・(未来の人たちのために)地域づくり、人づくりのベースを構築

～大石教授の講評～
・教育と家庭と地域というキーワードが挙げられた。教育が健康、医療介護とのキーワードにもなるし、健康や教育が家庭のキーワードにもなる。
・「あいさつ」を含めて、地域の交流も大事なことである。
・ここでも「交通手段の確保」という言葉が挙げられた、重要な課題である。
・小さなことからコツコツと、という良い発表だった。

F 班	サブテーマ：未来の人たちのために、今、自分たちができることは？

みんなが健康で素敵な人生を送るために
未来の人たちのために、今、自分たちができることは？

健康づくり（楽しく参加）

・健康であり続けることで医療費を抑制する
・健康で長生きするために定期的に健診を受けたり運動したりすること。また、趣味などの生きがいづくりで、自分らしい人生を送る
→医療保険料を減らす。
・病気の予防について知識を得る(20 代から)
・若い人たちを育てていく
・元気塾を続け、元気であることを今の若者に伝えていく
・予防の充実を図る
健診を定期的に行い、早期治療
・体操教室など、楽しんで運動できる場を作る

地域づくり・人材育成

・健康を共有する日々のために家族で日頃の話し合い。「人生すべて健康」
・地域作りは人作り
・終末期の対応について、家族と話し合う
・自分が今歩いている人生老後の生活を子供に見せる、残す

環境整備

・垂水の今後のために、医療の充実と職場の確保が必要
・垂水市に若者が住み続けられるような職場を作る
・交通の便が悪い地域でも通院が続けられるよう交通の充実を
・安心して医療できる施設設備
・健康管理できるように病院(質の良い)を確保(病院が無くならないように)
・年をとっても垂水に住めるよう介護サービスの充実を

健康であるためには何をすべきか若い人(40～60 代)に地域の中で伝えていく

～大石教授の講評～
・いわゆる「屋根瓦方式教育」といわれる方式で、教えられた人が、次に伝え、教えていく方式だ。
・医療体制への不安がこの班でも挙げられた。
・「終末期の対応」という重要なワードが挙げられた。誰にでも必ず訪れるものであり、その時、周りにどのように対処してもらいたいのか、話していくのは重要なことである。
・また、この班でも「人」というワードが多く挙げられた。

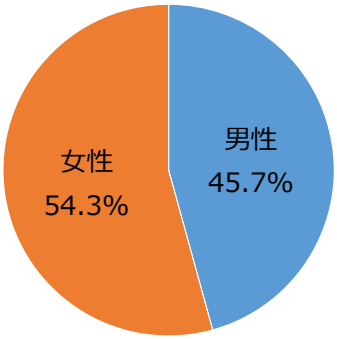
４．参加者アンケート結果

市民の参加者には、公開講座に参加した感想やワークショップで感じたことなどを聞くアンケート調査を実施した。

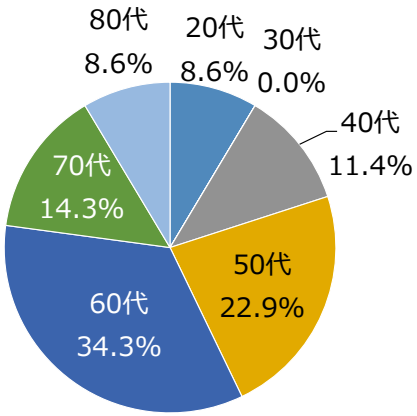
アンケート調査結果は以下のとおり。

（１）回答者の属性

〔性別　N=35〕



〔年代　N=35〕

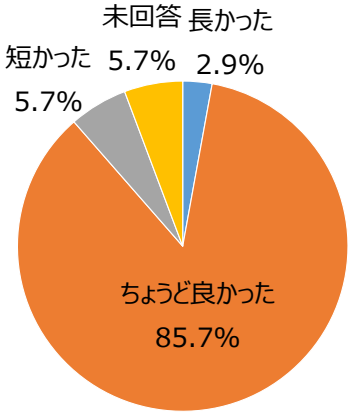


（２）調査結果

①　公開講座の時間

公開講座の時間については、「ちょうどよかった」が 85.7%と８割を超え、最も多くなっており、次に「短かった」が 5.7%、「長かった」が 2.9%となった。

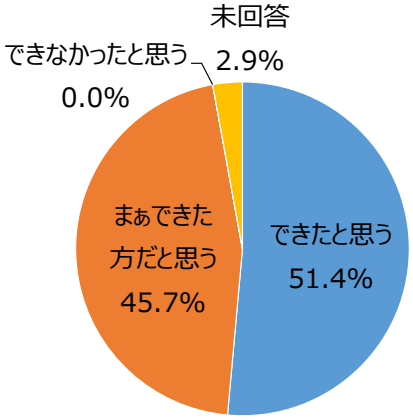
〔公開講座の時間　N=35〕



②　ワークショップでは自分の意見を発言できたか？

ワークショップで自分の意見を発言できたか？については、「できたと思う」と「まあできた方だと思う」を合計すると 97.1%と、ほとんどの参加者が自分の意見を発言することができたと回答しており、「できなかったと思う」は 0%だった。

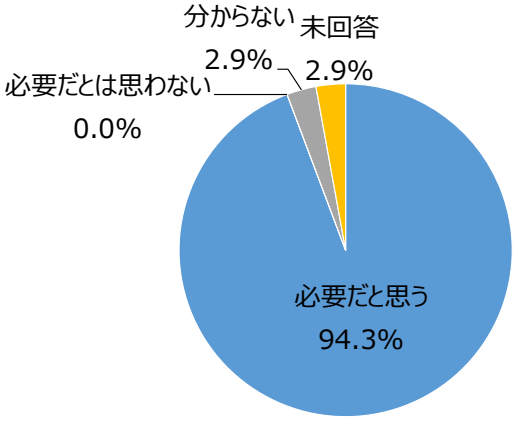
〔ワークショップでは、自分の意見を発言できたか？〕



③　今後も市民と行政が気軽に
話し合う機会は必要だと思うか？

今後も市民と行政が気軽に話し合う機会は必要だと思うか？については、「必要だと思う」が94.3%と9割以上を占め、「必要だとは思わない」は0%だった。

〔今後も市民と行政が気軽に
話し合う機会は必要だと思うか？〕



④　今後のまちづくりに期待すること（自由意見）

今後のまちづくりに期待することは以下のとおり。

〔今後のまちづくりに期待すること（自由意見）〕

No	回答内容
1	地域差が出てしまうことは仕方がないと思いますが、それぞれの住民に理解を求めていくこと、今後のあり方等の説明会はしてほしいと思います。「何年後はこうなる垂水市」を具体的に示すことをすることではないかと思います。（医療・介護・保険料・税金等）
2	色々な施策があると思うが、要は地域づくり、社会教育（市民の意識改革）であると思う。
3	年齢の若い（40～60 代）を中心に、こうした話し合いをしてほしい。若い人にも地域の役職をあたえる。
4	医療の充実と職場の確保
5	若者の育成（料理教室やカラオケ教室を立ち上げる。）若者が楽しく働ける職場を・・・）
6	40～60 代の現職の方々と本日参加の方々と一緒にこのテーマを語りたい。
7	40～60 才の働き盛りの方の参加があると良いと思う。
8	市民の声をきいて頂きたい。
9	健康第一。自分の事は自分ですね。
10	この公開講座に参加して大変良かったと思います。これからが楽しみです。みなの意見を聞くことが一番良かったと思います。ありがとうございました。
11	行政主体ではなく各個人の努力の積み重ねで・・・
12	人口増の施策を強力に推進（交流人口増にすり替えている気がする。）
13	市民の意見が反映されると、とてもうれしく思います。
14	とても勉強になりました。
15	市民のためのまちづくりを!!一部の方だけのものでは全体のものではないと思います。

以上